

香川高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	校外実習
科目基礎情報						
科目番号	201446		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建設環境工学科 (2019年度以降入学者)		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	1		
教科書/教材						
担当教員	未 定					
到達目標						
・与えられた実習課題の遂行をとおして自主的な行動力や問題解決能力を身に付ける。 ・コミュニケーション能力や社会におけるマナーを身に付ける。 ・報告書作成能力を高める。 ・報告会での意思伝達能力を高める。 ・将来の進路選択における判断材料の一つを得る。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1						
評価項目2						
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 A-1 学習・教育到達度目標 C-1 学習・教育到達度目標 D-1						
教育方法等						
概要	・与えられた実習課題の遂行をとおして自主的な行動力や問題解決能力を身に付ける。 ・コミュニケーション能力や社会におけるマナーを身に付ける。 ・報告書作成能力を高める。 ・報告会での意思伝達能力を高める。 ・将来の進路選択における判断材料の一つを得る。					
授業の進め方・方法	・主に4年生の長期休業中の2週間から1ヶ月間を利用して、民間企業や官公庁等において実務訓練を受ける。 ・受入先において担当者が割り当てられるので、その指示に従うと共に、与えられた課題に対して関係者とコミュニケーションをとりながら自主的に取り組む。 ・終了後は実習報告書を提出する。 ・実習報告会において発表し、参加者との質疑応答を行う。					
注意点	詳細な評価基準については、別途書面によって開示する。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス			
		2週	以下の内容を実施する ・校外実習先での実習活動 ・実習報告書の作成 ・実習報告会での発表及び質疑応答		・社会人に対して自己の意思を明確に伝達できる。 ・与えられた課題を自発的に遂行できる。 ・実習内容を報告書にまとめることができる。 ・実習報告会において実習内容を第三者に分かり易く説明できると共に参加者との質疑応答が行える。	
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	4thQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				

		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的 能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	4		
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	4		
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	4		
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	4		
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	4		
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	4		
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	4		
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	4		
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	4		
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	4		
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	4		
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	4		
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	4		
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	4		
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	4		
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	4		
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	4		
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	4		
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	4		
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	4		
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	4		
				企業には社会的責任があることを認識している。	4		
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	4		
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	4		
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	4		
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	4		
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	4		
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	4		
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	4		
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	4		
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	4		
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的方法で明確化できる。	4		
				公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	4		
				要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。	4		
				課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。	4		
				提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握している。	4		
				経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	4		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0

基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0